

メジロの繁殖行動観察記

吉田 三夫*

The observation record of the propagation act on *Zosterops*

japonica

Mituo YOSHIDA*

I はじめに

この家に引っ越してきてから3年経つ。この3年の4月から7月にかけて2組のメジロが、目隠しに植えた7本のシラカシの木のいずれかに巣を作り、雛を育てる。2組のメジロは同一の時期に雛を育てることはない。1度はヒヨドリが巣を作っていたが、卵を産まなかった。

少年期にヤマガラ、ウグイス、メジロ、シジュウカラなどを飼育していたことがある。こんなことから野鳥には幾分、興味と愛着がある。

さて2004年4月、シラカシの枝にメジロが巣づくりをはじめた。居間から観察できる場所であったので、観察記録を付けることにした。

II 観察記

4月17日

朝6時30分頃、7本あるシラカシの真ん中の木にメジロが飛来した。普通、小鳥はチョン、チョン動き回るものだが、それがない。まもなくするとメジロが飛び去った。メジロが卵を抱き始めたのだ。

2, 3日前にメジロが2羽庭のシラカシの木に来ていた。今年も巣づくりを始めたのだろうかと思ったが、もう巣づくりを終えて卵を抱いているとは知らなかった。庭に出て巣を探すと簡単に見つかった。高さ1.5m程の小枝の先、枝が二股になっている所の真ん中にあった。

これまでの、前年、前々年の観察からメジロは卵を雄と雌で交互に抱いていると考えている。だから、先ほどの飛来したメジロは巣から他の一羽が飛び出してから巣にはいったのだ。

メジロは巣づくりに何日位かかるのだろうか。判然としないが、それ程の日数を要しないようだ。

4月19日

朝7時20分。定休日。居間から巣を観察。メジロの飛来は全くなし。卵を抱く行為を止めてしまったのか、幾分不安。しかし巣があるシラカシの先の葉がわずかに揺れていた。そのうち一羽が飛来し他の一羽が飛び去った。この一連のメジロによる二羽の行動は、一羽の行動のように見える。

前年の時の卵を抱くメジロの姿はよく見られたが、今回は巣に隠れてしまっている。巣の大きさ、高さはその

時によって或いは個体によって異なるのだろうか。

メジロが卵を抱く位置、向きは同一又は180度違いのように考える。

14時30分。トウゴクミツバツツジの花の写真の撮影に夢中になり巣に近づき過ぎた。メジロが巣から警戒音を発して突然飛び去った。巣からの距離は1メートル以内である。私も鈍感であるが、この時期のメジロもかなり鈍感。

4月22日

朝6時30分 メジロじっとして動かさず鳴かず。鳴かず飛ばずとはこのことか。

4月23日

朝5時30分。巣の近くに三脚を据えて卵を抱いているメジロの写真の撮ろう待機。しかしメジロの姿は全く見えず、飛来もしない。時間の経過と共に痺れを切りし、巣に近づくと警戒音を発して飛び去った。卵を抱いていたのだが、姿は巣にすっぽり隠れていたのだ。思い切って巣の中を覗いた。卵は5個。素早くその場を離れ、メジロが巣に戻ってくるのを首を長くして待つ。5分後に飛来。安心。

5月1日

朝6時30分。メジロが飛来し他の一羽が飛び去る行動が頻繁になってきた。昨夕の午後5時30分頃、巣を見たらメジロが卵を抱かずに巣の端の上に止まっていた。卵から雛になったのだろうか。巣の中で何かおこっている。

午後3時。交代行動はますます頻繁になってきた。この時点ではメジロがエサを運んでくるのは確認できず。メジロは巣の端の上にとまっていた。私はこれまでと同じ距離まで近づいてみた。するとメジロは警戒音を発して飛び去ってしまった。巣の中と巣の端の上とは私を認識する距離は違うことに気付いた。私は蛮勇をふるって巣に近づき一瞬であるが、巣の中を覗いた。大きな口を開けた雛が上を向いているのが見えた。しかし雛が何羽いたのかを確認する余裕はなかった。若しこの行為で親鳥が雛を放棄したらどうしようという強迫観念強し。とは言っても巣を覗くぐらいのことでは放棄しないことを学習。

推測だが、卵を抱いていると感じたのは4月17日、実際には16日に卵が産まれたと仮定しよう。雛を確認したのは5月1日だが、4月30日の夕方にはメジロが巣の端の上に止まっていたので、この日が雛になったと仮定で

*川崎市青少年科学館

きる。すると産卵から雛になるまで14日間。2週間となる。

5月6日

午前10時。定休日。人に対するメジロの警戒が、これまでより強くなる。これまでだったら大丈夫な巣からの距離がより遠くなった。これまでより遠い距離でもメジロは飛び去ってしまう。

親鳥がエサを与える位置は、二股になっているシラカシの枝の真ん中に巣があるのだが、二股の元の方の巣に近い一本の枝の上である。また、エサをくわえて巣に飛来する方向と他の一羽が飛び去る方向は一致せず、角度にして40度程の違いがある。ただ飛来する方向及び飛び去る方向は毎回同じである。これは巣でメジロが交代するのに都合がよいからだろうが、後述するようにエサを与えずに飛び去る時も同じである。近くに梅林があり、きっとそこがエサ場であろう。

親鳥は雛にエサを与え終わると巣の中に入って雛をまるで卵を抱くように守る。他の一羽がエサをくわえて飛来すると巣から飛び去る。この繰り返し。

親鳥が飛来すると雛達は一斉に口を大きくあけて首を伸ばす。親鳥が運んでくるエサは決まって白い幼虫である。雛は目が見えているのだろうか。親鳥がエサを運んできたのを認識するのは、親鳥の羽音や枝に止まった時の振動ではないだろうか。

5月7日

午後5時50分。写真を撮ろうと三脚を立てていると、親鳥はまっすぐ巣に飛来しないで、手前のシラカシの下の方に止まって、それから巣にやってきた。更に警戒心が強くなった。

ヒヨドリが2羽、巣の近くにやってきてガサガサし出した。雛に危害が加えられてはいけないと思い、いつでも庭に出られる体制をとった。ヒヨドリが去った後、巣を遠くから見たら親鳥2羽が雛を隠すように守っていた。

5月8日

朝7時。エサは白い幼虫。だんだんエサを運ぶ回数が多くなる。巣に親鳥がいなくなり、親鳥はエサを運ぶ役割に専念。エサを与えるとすぐに飛び立つ。親鳥の行動パターンがこれまでとは違ってきた。

5月9日

午前8時。定休日。エサを運んでくると元気な一羽の雛がいて他を圧倒するかのよう、翼を広げて首を伸ばしている。雛の生育に差があるようだ。雛が育つ過程では翼の発達が一番早いのではないだろうか。エサは相変わらず白い幼虫。親鳥がエサを持ち帰るように見えたが、これは雛の糞であるようだ。後に巣の中を見たが、雛の糞のかけらもなかった。

午後2時30分。雨。雨だと親鳥の活動が鈍るようだ。エサを運んでくる回数がぐんと減った。

5月10日

午前7時。雨の中を親鳥がエサを運んでくると、雛達は弱々しいが、かまびすしく鳴く。これまでになかったことだ。親鳥はエサを与えるとすぐに飛び去る。

午後4時。雛の中から一羽、親鳥と同じ鳴き声をするものが出てきた。巣のある小枝が揺れるようになった。雛達が巣の中で所狭しと動いているからであろう。親鳥は頻繁にエサを与えると飛び去っている。

5月12日

朝6時40分。雛が2羽、巣の端の上に止まって親鳥がエサを運んでくるのを待っている。親鳥は1分おき位にエサを運んでくる。そのうち親鳥が特殊な鳴き声を発した。すると雛達は一斉に巣を飛び出した。この時、私は雛は3羽だった様に思う。確認はできていない。1羽は弱々しくもシラカシの木の上に向かって飛び立った。他の2羽は庭の植え込みに降り立った。一羽の親鳥は元気のいいシラカシの木の上に向かって飛んだ雛を誘導するかのよう、一緒に鳴き声を発しながら飛んでいった。

植え込みに下りた2羽のうちの1羽は庭からいなくなり、最後の1羽は植え込みの中でチョンチョンしており、あまり飛べる状態ではないようだ。出勤の時間がきたのでその場を去った。

夕方帰宅すると門扉にシジュウカラの雛が飛べずに止まっていた。親鳥の鳴き声が姦しかったが、暗くなるにつれて聞こえなくなった。昼にはお隣にいたということで、すり餌を食べたという。この時、メジロの雛が屋間お隣にいてどこかに飛んで行ったということに耳にした。少し安心。シジュウカラの雛は、このままでは死んでしまうかも知れないと思い2日間すり餌を与え、飛べるようになったので放した。巣立ちは雛にとって最初の試練なのだろう。

数日後、メジロの親鳥と幼鳥が巣のあるシラカシの庭にやって来た。親鳥と幼鳥は頭の部分の色が異なるので識別可能。次に幼鳥だけがやってきていたが、その内、飛来しなくなった。

約一月後に別なシラカシの木の高い所にメジロが巣をつくり雛を育て始めた。どういう訳かこの庭では2つのつがいが同時期に巣づくり雛育ては行われない。

III まとめ

分かったこと

- 1 さて4月30日が雛になったと仮定した。巣立ちは5月12日、これははっきりしている。雛から巣立ちまでは12日間、産卵から雛までが14日間であるから、産卵から巣立ちまでは26日間ということになる。これは産卵がいつかということが重要になってくる。おおまかになるが、産卵から巣立ちまでは約一月と言える。
- 2 メジロが卵を抱く時の向きはほぼ一定の向きであること。
- 3 卵をだいている時のメジロは鳴かず飛ばずの状態であること。
- 4 雛が成長するにつれて人に対する警戒心が強くなること。
- 5 この庭での場合、メジロが巣に向かってくる道、

巣から飛び去る道は決まっているが、同一ではないこと。

- 6 エサは常に白い幼虫であったこと。
- 7 親鳥は、雛が小さい頃はエサを与え終わると巣の中に入って雛を守るが、雛が大きくなるとエサ運びに専念し巣に留まることはないこと。また、雛は巣立ちが近くなると巣の端の上で親鳥がエサを運んでくるのを待つようになること。

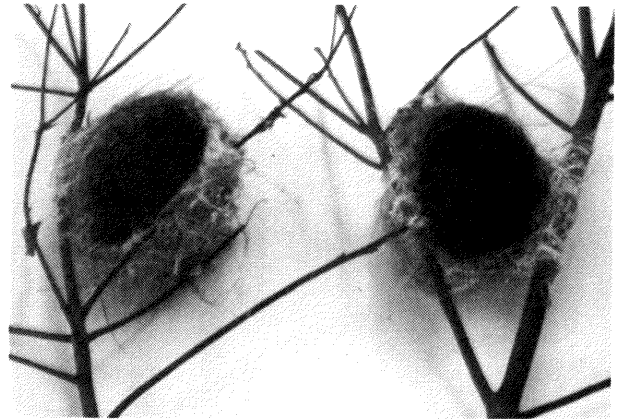
課題

- 1 巣づくりに何日位かかるのか。
- 2 雛の成長はどの部分が最も早いのか。
- 3 卵から雛になる確率はどの位か、など

尚、この時期にみられる雛のエサの白い幼虫は、かわさき自然調査団昆虫班の岩田芳美氏によればアゲハモドキ(蛾)ではないかということである。

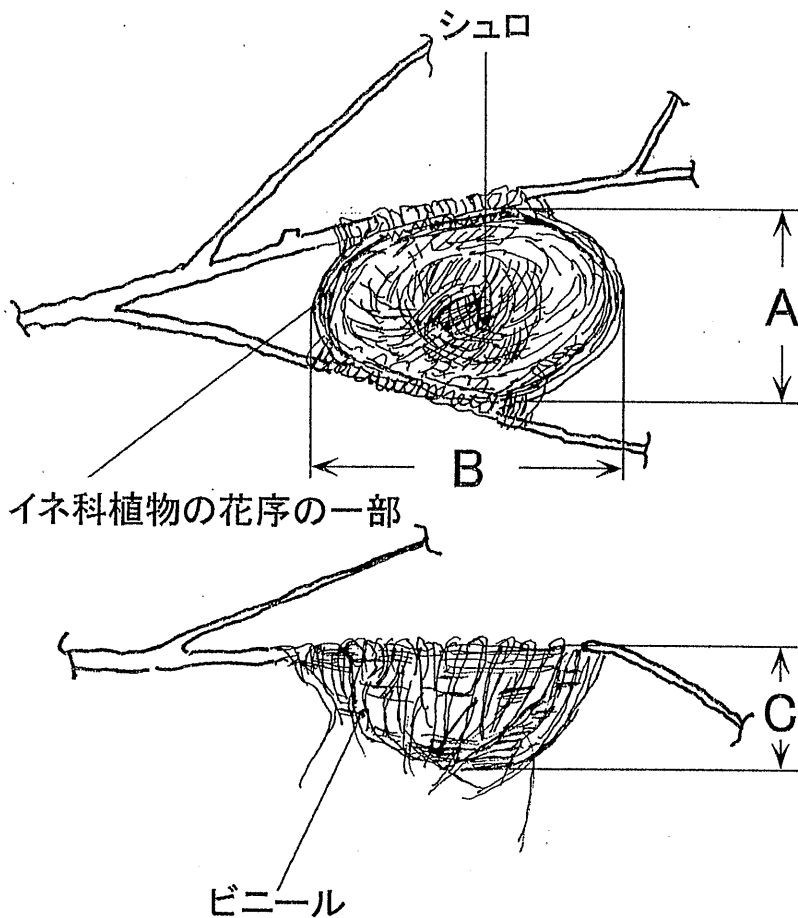
文献

黒田 長久監修(1999)日本の野鳥 巣と卵図鑑p182. 世界文化社



メジロの巣

メジロの巣の材料と大きさ



単位 mm

| A | B | C |
|----|----|----|
| 59 | 83 | 50 |
| 62 | 73 | 48 |